

世界遺産通信

IN 三里小学校

vol.03

令和5年7月

和歌山県世界遺産センター発行

～世界遺産学習全国サミット inたなべ～



松本茂子さんから学ぶ語り部

7月13日(木)、三里小学校5・6年生が熊野本宮語り部の会の松本茂子さんに指導を受けました。この日は、これまでに自分たちで書いた語り部原稿を読み、指導を受けました。子どもたちは3人または4人のグループに分かれ、和泉式部の歌に抑揚を付けるなどの工夫をしながら読んでいました。読んだ後、言葉の読み間違いや内容の訂正、そして読むときの留意点などについて、一つひとつ丁寧に教えてもらいました。子どもたちはその場で原稿に赤ペンで書き直したり、書き足したりしていました。表情をうかがうと、どの子も納得している顔でした。これでまた原稿がより良いものになること間違いなしです。

担任の先生のお話



複式学年での取り組みなので、上の学年の子が頑張っているところを見て下学年の子を引っ張ってあげているところがとてもいいと思います。語り部学習では、全員が前向きに取り組んでいて楽しくやっていますと話してくれました。

参観して感じたこと

熊野の魅力について松本さんはこんな話をされていました。「川のせせらぎ、空の色、ほほに当たる風。自然をよく見て静かにしていると、小鳥の鳴き声がBGMのように聞こえる。五感を使って自然を体感できることが熊野の醍醐味だ。」この地に住むものにとっては当たり前ですが、それが熊野の魅力なんだと再確認しました。

授業後の校長室で

三里小学校では、子どもたちが人前で発表するのに自信がないということから、その課題解決のために語り部学習を始められたそうです。語り部を楽しくやって、語り部活動に自信が持てるようになれば、他のどんなことにも自信を持って取り組んでいけるでしょう。「子供たちには、世界遺産のある熊野から来ました。」と言えるようになってほしいというお話がありました。



熊野本宮語り部の会 松本茂子さん